

次回の国際理解講座

日時 2017年4月20日(第3木曜日) 18:30~20:30 国際交流会館1階ホール

内容 リトアニアの歴史、文化、諸事情について

講師 :Andrius Kleiva (クレイヴァ・アンドリュウス) 氏

一橋大学法学部に在籍。法律を専攻。産まれも育ちもリトアニア出身のクレイヴァ氏は、高校を卒業後、パリ政治学院に正規学生として入学。

C 報告事項2月の異文化コミュニケーションは、「なぜ、私たちの国が親日国になったのか」をテーマに3か国の事例発表を一橋大学・留学生の皆様から。そして昨夏、「日本とポーランドの友好の歴史」のイベントとして国立の子供達とポーランド大使館を訪問し、絆を深めた報告など中身の濃い講座だったと思います。会員の杉本さんから所感の寄稿文を頂戴しています。(小原千種 記)

セルビア、ウズベキスタン、ポーランドという、3つの国と日本との絆の事例を3人の留学生が紹介してくれた。セルビアのヤイッチ・スロボダンさんは、東日本大震災の時にヨーロッパで一番多くの義捐金が集まった話。ウズベキスタンのスルトノバ・ヒーローさんは、第二次世界大戦後にシベリアで抑留された旧日本兵が建設したナヴォイ劇場の話。そしてポーランドのアレクサンドラ・ファルコフスカさんは、第一次世界大戦後の戦争孤児を、その当時ポーランドとの国交がなかった日本政府が受け入れた話。そのどれもが、こういう機会がなければ知ることがなかった、日本の先人が世界の国々で行ってきた歴史の数々。先人は、決して「情けは人の為ならず」というつもりでは無かっただろうけれども、そのお蔭で、たくさんの留学生が日本に学びに来てくれるなど、今の私達はたくさんの恩恵を受けている。合わせて、国立市役所と共催で行ったポーランド大使館訪問の報告を会員の和田貴博さんから。参加した中高学生が、ポーランド語で挨拶をした時に大使館の方が驚いたというエピソードは、世界にはたくさんの言葉や文化があるという事を体験できる、真のグローバル教育としてうってつけだと感じた。第二弾を期待したい。(広報担当 杉本敬太郎 記)

向かって左の写真は、ポーランド大使館の大使室で大使や参加者達と。

右の写真は、大使館内で一等書記官のオスミツカさんに質問する子供達。

